福島民友　2019年（令和元年）7月6日（土曜日）　5面

廃炉作業効率化貢献
福島大に東電感謝状

県内

東京電力福島第1原発の廃炉作業効率化に貢献したとして、東電ホールディングス（HD）は5日、福島大に感謝状を贈呈した。

福島大は放射性物質の一つであるストロンチウム90の自動分析装置を開発。従来は2週間から1カ月程度かかっていた測定を30分程度に短縮できるようにし、2014年12月から廃炉作業で運用されている。

感謝状を贈呈した東京電力ホールディングスの小野常務執行役㊧と福島大の中井学長＝福島大

福島大で行われた贈呈式で、同HDの小野明常務執行役は「汚染水の分析作業が遅滞なく迅速にできるようになった」と話し、感謝状を受けた中井勝己学長は「これからも廃炉研究に対して貢献できるよう努力していきたい」と語った。